

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 3 区分

【発行日】平成 23 年 1 月 13 日 (2011.1.13)

【公開番号】特開 2005-164223 (P2005-164223A)

【公開日】平成 17 年 6 月 23 日 (2005.6.23)

【年通号数】公開・登録公報 2005-024

【出願番号】特願 2004-314938 (P2004-314938)

【国際特許分類】

F 2 4 C 7/04 (2006.01)

【F I】

F 2 4 C 7/04 B

【手続補正書】

【提出日】平成 22 年 11 月 18 日 (2010.11.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

英国特許出願公開第 2 2 7 5 1 6 3 号明細書に記載されているように、例えば金属の皿様支持体を包含し、この皿様支持板が熱及び電気絶縁材料の基層を有し、この基層に関してひとつ又はそれ以上の放射電気加熱エレメントが支持されている電熱器を提供することは、知られている。そして、熱絶縁材料の壁が電熱器の外周まわりにおいて電熱器内に直立して配置されて設けられている。この壁は、電熱器の上に位置している調理板の下面に接触するように配置されている上面を有する。ひとつ又はそれ以上の同様な壁を電熱器内に追加して設けることができ、これにより複数の分離した加熱区域が電熱器内に設けられる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

また、上記英国特許出願公開第 2 2 7 5 1 6 3 号明細書及び英国特許出願公開第 2 3 1 8 4 8 9 号明細書に記載されているように、このようなひとつ又は複数の壁は、例えばシリカ及び／又はパーミキュライトのようなひとつ又はそれ以上の耐火材料から成ることは知られており、また、例えばガラス又はセラミック繊維材料のような繊維補強材料を追加的に含有することができる。このような耐火材料は、實際上、多少研磨性を有しており、その結果、もし相対的横動きが電熱器とガラス・セラミック製調理板との間に生じた場合には、壁の上面は調理板の下面を研磨して摩耗せしめるものである。このような横動きは、多分、特に電熱器と調理板とを包含する、例えばホブのような調理装置の製造及び輸送中に生じるものである。そして、調理装置が最終ユーザにより所定の場所に置かれた後は、多分、このような相対的横動きが更に生じることは少ないものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 4 】

更に、特開 2 0 0 1 - 2 3 3 6 3 6 号公報及び特開 2 0 0 1 - 2 3 3 6 3 7 号公報に記
載されているように、下面に耐熱材料の印刷模様を備えているガラス - セラミック製調理
板を提供することも知られている。このような印刷模様は、調理板の上面からこの調理板
を通してみるように設けられている。そして、印刷模様は調理板の下に位置
している電熱器により加熱される調理板の加熱区域の輪郭を確認できるように設けること
ができる。印刷模様は、また、審美的な魅力を持つようにすることができる。